



第79号

2010/10

## RACDAバス停カレンダー発売

文 = 岡将男

非常に冒険的試みとして、バス停の写真をテーマにしたカレンダーを作成して、発売にこぎつけた。「全国のバス停に屋根とベンチを！！」のスローガンのもと、「バス停アダプト事業」を提案し、既に南方交番前ではトマト銀行さんとベネッセさんの協力で、企業の私有地をただで貸してもらって、バス停が整備されている。



従来バス停はバス事業者が整備するものとされてきていたのだが、岡山県南だけでも1500か所以上のバス停があり、上り下りで倍、岡山県内だけで5000か所もあるだろう。しかしそのうち屋根があるのは岡山駅行き上り26.8%、下り16.7%。ベンチがあるのは岡山駅行き上り32.1%、下り25%であった。(2008年調査)ベンチがあれば10分待てる。屋根があれば30分待てる。

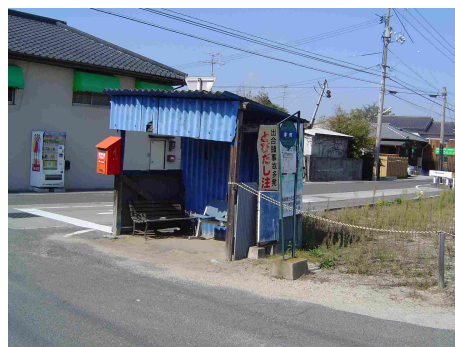


岡山市を嚆矢としてMCドゥーコー社の広告付き高規格バス停も導入されているが、全国で3000か所程度を予定しているという。しかし全国にはおそらく20万か所以上のバス停があるだろう。この全国のバス停全部

にベンチと屋根をつけたらどんなにいいだろう。1か所100万円として2000億円だ。高速無料化よりもおそらく喜ばれるのではないが。

「バス停アダプト事業」では、バス停を税金で作るだけでは駄目である。バス停の設置の金額よりも、その設置への調整努力の方がよっぽどお金と時間がかかるし、バス停の管理をバス会社が常時やれるわけではないのである。

全国の金融機関、郵便局、病院などはお年寄りにとっても利用頻度の高い施設である。これらの業界が全体として「バス停アダプト事業」に参画していただき、利用者サービスとしてバス停の屋根とベンチの設置を自己資金でやっていただければありがたい。さらにバス停そばの銀行や公共施設などでは、トイレの使用を考慮してほしい。



「バス停アダプト運動」を学校、町内会、学区などが「安心安全」の社会づくりの一環として取り組んでいただくことも、非常に有意義である。今国会以後検討されている「交通基本法」制定後は、諸政策を単に国や市町村、事業者に一方的に義務を押しつけるのではなく、公共交通の維持を国民的地域コミュニティ再生運動として展開していくことが、法律の本来の意味ではないだろうか。

そんな思いを込めて、バス停カレンダーを発売した。RACDAの重要な資金源なので、是非ご協力いただきたい。

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&amp;FAX 086-232-5502

E-mail [racda\\_okayama@ybb.ne.jp](mailto:racda_okayama@ybb.ne.jp)

RACDA

検索

詳しくは [http://wiki.livedoor.jp/racda\\_okayama/](http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/) まで

10月1日両備バス桑野営業所を岡電バスへ移管



両備バス桑野営業所はおもに山陽大学・新岡山港方面、下中野・火の見方面への12路線21系統を車両数28台で担当している。このたびこれらの路線は“岡山市内バス路線を分かりやすくする一環”として岡電バスへ運行が移管される。

これまで郊外（西大寺・玉野）方面は両備バス、市内バスは岡電バスと棲み分けがされてきたが、マイカーの一層の普及や規制緩和などの影響で郊外線もお客を求めて停留所を増やしたために棲み分けの図が崩れていき、郊外線と市内バスが錯綜する事となった。これはバスターミナルの分かりにくさに



も繋がっている。同じ方面に行くにも離れた乗り場なために乗車機会を逃すということもあるだろう。10月1日の路線移管では路線・車両の引継ぎのみだが、時機を見てバスターミナルの再編も行われることと思われる。だれにでも使いやすい路線バスになることを願うところである。

(松田和也)

